



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2010年3月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

医療機器の安全管理を担う 臨床工学技士



臨床工学科 熊代 佳景

薬事法改定による不具合報告の義務化（平成15年）、医療法改正による安全管理体制の確立（平成19年）、立会い規制（平成20年）、診療報酬改定による安全管理料の新設（平成20年）など、昨今医療機器の安全管理に関わる様々な法規制が行われています。しかし「自動体外式除細動器（AED）の管理不備により使用時に電源が入らなかった事例」や「輸液ポンプのチューブが正しく装着されず、薬液の投与不足をひき起こした事例」など、医療機器が絡んだ事故は、今でも後を絶たず報告されています。

こうした重大な事故を未然に防ぐ上でも、医療機器の適正な保守管理が日頃から必要であり、当院ではその責務を臨床工学技士5名が担っています。臨床工学技士が行う保守管理業務では、人工呼吸器などの生命維持管理装置はもちろん、輸液ポンプ、医用テレメータなど生命維持管理装置として規定されない医療機器も含め、中央管理方式で行っています。医療機器が安全かつ効率的に使用できるように専用装置を用いた点検（精度管理）や、貸出などの業務を行います。また消耗部品の交換や修理などにもできる限り対応します。その他の業務では、保守点検計画やマニュアルの作成、稼働率による配置台数の決定など、医療機器の購入から廃棄までのトータルサポートを行います。

安全管理の側面では、医療機器を適正に管理しても誤った使用方法（ヒューマンエラー）が問題になることもあります。安全使用を目的とした改善のための追及、システム構築が重要な鍵となります。その一つとして、新人向け人工呼吸器管理研修会や各種医療機器研修会を定期的を開催し、医療スタッフの知識・技術向上に繋げています。この研修会では地域の医療機関と情報を共有し、共に勉強することを目標としていますので、院外からも多くの皆様の参加をお待ちしております。

医療法改正（平成19年）では、薬事法に定められる全ての医療機器（1192種類）が保守管理の対象となりました。在宅で使用する医療機器もこの中に含まれています。今後は呼吸療法など在宅医療機器のサポートにも積極的に加わり、地域医療へ貢献していきたいと考えています。

Contents

医療機器の安全管理を担う臨床工学技士 ...	1
研修・講演・勉強会のご案内	2
3月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
整形外科 専門外来を開設します	3
富山市民病院 地域連携・開放型病床講演会・懇親会 ...	4.5
診療所・病院・施設訪問	6
地域連携室と介護支援専門員の連携強化 ...	7
ふれあい地域医療センターにおける「入院のご説明」...	7
医師不在のお知らせ	7
緩和ケア病棟だより	8
編集後記	8

1 . 地域連携・開放型病床症例検討会

4月 日時：4月13日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂
 ミニレクチャー 非触知性精巣に対する腹腔鏡を用いた診断・治療
 腹腔鏡下ヒルシュスプルング氏病根治術
 小児外科 岡田 安弘 山崎 徹

近年、小児外科領域においても内視鏡外科手術の占める割合が急速に増加しつつあります。その手術術式の最大の利点は何といても低侵襲で、整容的にも優れているという点です。最近、当科でも非触知性精巣やヒルシュスプルング氏病に対し腹腔鏡を積極的に取り入れています。今回これらに関してご紹介いたします。

陰嚢上部から鼠径管内の停留精巣に対する診断及び治療は比較的容易に行えます。しかし、非触知精巣が腹腔内停留精巣なのか消失精巣なのか、その他なのかの診断は、超音波検査やMRIなどで確定診断を行うことは容易ではありません。そこ

で確定診断し、治療につなげるには、腹腔鏡検査は重要だと考えられます。

ヒルシュスプルング氏病は、胎生期の腸管への神経節細胞の遊走が途中で止まってしまうため、腸管神経節細胞が先天的に欠如している疾患です。そのため、通過障害や機能的腸閉塞が起きます。従来本症に対し、Swenson法、Duhamel法、Soave法など種々の開腹根治術が行われてきました。最近は腹腔鏡下手術が施行されるようになってきており、当科でもSoave法に準じた腹腔鏡補助下経肛門の結腸pull-through法を用いています。

症例検討

- ・気道狭窄を契機に発見されたMALTリンパ腫の1例 呼吸器内科 山本 宏樹
- ・糖尿病教育入院患者と歯周病 歯科口腔外科 高橋 勝雄

5月 日時：5月11日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂
 ミニレクチャー：心房細動患者の日常診療 循環器内科 寺崎 敏郎

2 . 内科CPC

日時：4月13日（火）17：30～
 場所：医局カンファレンス室
 毎月第2火曜日に開催

3 . とやまレントゲン読影会

日時：4月16日（金）19：00～20：00
 場所：集団指導室
 毎月第3金曜日に開催

4 . 感染対策学習会

日時：4月12日（月）17：45～19：00
 場所：講堂
 テーマ「標準予防策と感染経路別予防策」
 新任職員必須！
 日常医療・介護行為の基本対策
 手洗いと防護用具の正しい使用方法
 講師 当院感染対策アドバイザー
 波多江 新平先生

5 . 看護研修 衛星研修S-QUE

《Eナース》
 日時：4月7日（水）18：00～19：20
 場所：講堂
 テーマ エビデンスに基づいた感染管理の知識とスキル

日時：4月21日（水）18：00～19：20
 場所：講堂
 テーマ 心電図の基本を極める！

《新医療看護連携》
 日時：4月28日（水）18：00～19：30
 場所：講堂
 テーマ 地域連携パス「がんPart 1」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



整形外科 専門外来を開設します

整形外科・関節再建外科外来

4月より整形外科では、「手の外科」「関節外科」「スポーツ外来」の各専門外来を設けることになりました。「手の外科」では、手の痛み、しびれなどの手に関する症状を、また、「関節外科」では股関節・膝関節疾患を、「スポーツ外来」では、日本体育協会公認のスポーツドクターが、スポーツによる傷害の治療からリハビリまでを診察・治療いたします。

水曜日 手の外科外来（担当 伊藤医師）

木曜日 関節外科外来（担当 坂越医師）

スポーツ外来（担当 島 医師）

なお、受診には紹介状が必要です。



富山市民病院 地域連携・開放型病床講演会・懇親会

今年度の「富山市民病院 地域連携・開放型病床講演会・懇親会」を下記の通り行いました。第一部は、地域医療支援病院として承認された後の活動について、置塩良政地域医療部主任部長が講演いたしました。紹介数・逆紹介数や紹介率・逆紹介率、研修参加者数などの報告があり、今年度1月の段階で、当院の研修に参加された地域医療機関の方々はずでに2,500名を超えているとのことでした。

第二部は懇親会でした。先生方と楽しいひと時を過ごしました。



日 時：平成22年2月26日（金）19時30分～

会 場：ANAクラウンプラザホテル

第一部：講演会

講 演 「地域医療支援病院認定後の活動報告」

演 者 富山市民病院 地域医療部主任部長 置塩 良政

第二部：懇親会



講演会



懇親会





《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 60 あゆみの郷

今回は「あゆみの郷」を訪問させていただきました。

名 称	社会福祉法人 秀愛会 あゆみの郷
住 所	富山市稲代1023
医 師	北川正信先生(施設長)、宮本裕子先生
標 榜 科	内科・小児科・精神科・リハビリテーション科
診察日・時間	月～金曜日 9:00～17:15 受付 8:30
定 員	一般病床 57床(平成22年4月～) 短期入所 2床
施 設 区 分	重症心身障害児(者)施設、児童デイサービス、ショートステイ、 重度訪問介護・重度包括支援

訪問記



あゆみの郷前景



北川正信先生とスタッフの皆様

2月中旬、大沢野地域にある「あゆみの郷」を訪問しました。施設長の北川先生、山口副施設長、寺崎看護部長に温かく出迎えていただきました。あゆみの郷は平成10年4月に富山県で初めて開設された民立・民営の重症心身障害児(者)施設です。児童福祉施設であるとともに医療法に基づく病院でもあり、重度の精神発達遅滞と重度の肢体不自由が重複している児童や成人が入所されています。このたび、地域連携実務担当者ネットワークの会議で情報交換したことをきっかけに、訪問させていただきました。

施設は、大きなガラス窓から日差しが入る造りになっており、とても明るい印象を持ちました。あゆみの郷では、医療的なケアはもちろんのこと、利用者の「生活援助」が日常業務の中心であり、いろいろな行事や外出を大事にしておられました。お祭りや誕生日会を開いたり、職員とマンツーマンで外出したりされるそうです。また、療育の中では医師や看護師、介護職だけでなく、リハビリや保育士のスタッフも充実しており、多職種がそれぞれの専門を活かしながら、利用者の生活を支えておられました。山口副施設長から「一般病院や介護施設とはまた違い、入所者もほとんど変わることなく、長い関わりを持っていることが特徴の一つです。施設がしてあげることが必ずしもよいことではなく、施設側の自己満足に陥らないように日々気をつけています。まずは子供と家族(親)の思いを受け止めることが大切です」と伺いました。

北川施設長は「貴院にはいつも適切に対処していただき感謝しております。わが国の重症心身障害児(者)施設には家族の希望から築き上げてきたという誇るべき歴史があり、それをぜひ知っていただきたい。重度の障害を持ちながらも、より快適な生活を送るために役割を果たしていきたい」とおっしゃられ、感銘を受けました。重症心身障害児(者)は全国でおよそ4万人、在宅生活を希望している家族も含め、入所待機で在宅生活を送っているケースの方が多そうです。施設の数が少なく、あゆみの郷も入所の待機者がいる状況だそうですが、重症心身障害児(者)を持つご家族の避難場所としての役割を果たし、施設を出てもまた入れる「地域に開かれた施設」を目指していきたいとのことでした。

重症心身障害児(者)施設を訪問するのは初めてだったので少し緊張しましたが、施設の方々の献身的なかかわりや熱い想いをお聞きし、これまでのイメージが変わりました。今回の訪問で考えさせられることが多く、大変勉強になりました。地域医療支援病院として、地域の施設の後方病院としての役割を担っていかなければと決意を新たにしながら帰路につきました。



写真で作る「あゆみの郷」

地域連携室と介護支援専門員の連携強化

3月2日(火)13時30分より、サンシップとやまでの富山市介護支援専門員協会主催による研修会で、富山医療圏公的6病院が、各々の連携室の特徴を交えて事業説明をする機会をいただきました。120名とたくさんの方が参加があり、地域連携室への要望や相談などたくさんのご意見をいただきました。

ケアマネジャー側からは、「地域連携室が、病棟とのパイプ役になり連携をスムーズに行ってほしい」「専門用語が多く、福祉系のケアマネジャーには理解できないことがある」一方地域連携室側からは、「診療情報提供書の必要性の有無」や「情報は地域連携室が把握しているので、連絡相談をまずいただきたい」などが挙がりました。いずれにしても、医療・介護双方が、利用者が安心して入退院できるようお互いの役割を理解し、実務者レベルでの連携が必要との結論に達しました。

昨年12月公的5病院地域連携室職員が世話人となり富山医療連携実務担当者ネットワーク交流会ができましたが、会を代表して交流会のお話もさせていただきました。そこでの意見も実務担当者同士による地域医療連携の推進が重要との結論に達しました。

地域完結型医療を推進していく中で、医療と介護の協力体制が今後のキーワードになることを実感いたしました。

ふれあい地域医療センターにおける「入院のご説明」

入院案内担当 扇原 益美

最近のご高齢の方の入院が増えてきたと感じます。高齢のご夫婦のみというご家庭も多く、疾患や検査の理解が困難という方も少なくありません。その上、入院時に必要な書類や入院生活など、様々なことに関する理解の困難が入院への不安を増強する一因となっています。

当院では、入院予約となった患者さんご家族に対し、ふれあい地域医療センターにおいて、入院に必要な書類と入院生活に関するご説明を専従の看護師がゆっくりと時間をかけて行っています。また、入院後に必要な基本情報は、入院される前に電子カルテに入力しております。そうすることで、病棟の医師や看護師は早期から患者さんの状況を把握することが可能となっています。入院生活の説明をしているうちに不安を口にされることも多く、問題点は病棟へ繋ぐようにしています。

今後もより安心して入院されるよう、様々な工夫をして努力したいと思います。

医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

4月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	7日	山本	脳神経外科	1日、2日	山野
	9日	青山	整形外科・関節再建科	9日	澤口
産婦人科	8日、9日	山西		15日、16日	伊藤
	7日、14日	金枝	9日	坂越	
外科・乳腺外科	8日、9日	福島	歯科口腔外科	6日(AM)	高橋
	7日	野島	小児科	22日、23日	橋本
小児外科	1日、2日	岡田	皮膚科	16日	野村
	1日、2日	山崎	その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。		

～ 緩和ケア病棟だより ～

緩和ケア病棟ではひな人形を飾り、人形の周りには菜の花や麦の穂、桃や桜の花を飾って春の息吹を感じています。

平成21年4月、緩和ケア病棟のオープンとともに『緩和ケア病棟だより』を連載してきましたが、早いもので今回が最終回となります。

病棟スタッフやボランティアは、この一年で多くの患者さんご家族に出会いました。出会いやかかりの中から「ここに来るまでの迷い」「支え合い許し合える」「生かされている自分と向き合う」「自分らしく生きる」「自分と向き合いながら人生の最期を迎える」など本当に多くのことを学びました。

ダイニングルームたてやまには、あんなこと、こんなこと、何でも好きなことを自由に書いていただけるように「つぶやきのーと」が置いてあります。

「つぶやき」の中から

晴れても 曇っても 頑張っても なまけても いちにちは一日
今日を精一杯 生きてみる まずそれから

これからも、学び得たことを活かし、緩和ケア病棟の年輪を育み、実りある充実した大輪となるよう、努力していききたいと思います。

そして、患者さんご家族が穏やかに過ごせる時間を提供し、一期一会を大切にしていきたいと思っております。



地域のみなさんとともに歩む、緩和ケア病棟を今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。一年間ご愛読くださりましてありがとうございました。

4月からは「認定看護師・エキスパートナースからのメッセージ」と題し、認定看護師・エキスパートナースの活動を連載します。

編集後記

当院の地域医療連携に関する広報誌として「地域医療連携ニュース」が誕生したのは、平成16年4月でした。地域医療連携室の開設時に第一号を発行しました。泉院長が「...富山市民病院は地域医療支援病院を目指し、地域の医療機関の皆様と共に、地域の医療を支えていきたいと考えております。...」と、書いております。その後平成19年に現在のふれあい地域医療センターへ移転し、紹介受付（前方連携）と療養相談（後方連携）を一本化、総合的に地域医療連携を行う体制ができました。平成20年度には県内初の地域医療支援病院として承認されました。承認された時に、「地域医療連携ニュース」を「れんけいと支援」に名称変更し、発行を続けてきました。一度も休刊することなく、毎月お届けすることができたのは、先生方より温かく見守っていただいたおかげと思っております。

稚拙な内容ですが、今後とも連携を考える一助にいただければ、と思ひます。4月以降も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ふれあい地域医療センター 高畑 由記子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp



この印刷物は、グリーン基準に適合した印刷資材を使用した環境配慮型製品です。